

# 自分のために生きよう



## 納谷昌之

富士フイルム(株) R&D 統括本部 先端コア技術  
研究所  
[258-8577] 神奈川県足柄上郡開成町牛島577  
主席研究員, 博士(工学).  
専門は光学.  
masayuki.naya@fujifilm.com

<http://fujifilm.jp/>

あるときから私は「自分のために生きよう」と決心しました。同時に「自分のために生きる」ということの意味について考えるようになりました。

就職して最初に配属された職場は、私が本当にやりたいことができる部門ではありませんでした。自分が目指そうとしていた世界から取り残されていくようで、いつも不安に駆られていました。そして、心の中でいつも眩んでいたのです。自分がこんなにつまらない思いをするのは、的外れの職場に自分を配属した会社のせいだと。そんな数年間を過ごしていたのですが、ある夜、眠れぬままに寝床の中でいろいろなことを考えていたら、ふと、そうやって自分の不遇を人のせいにして呪ってばかりいる自分自身を「ずいぶんと嫌な奴だな」と強く感じたのです。そのときにはすでに家庭を持っていましたが、これでは父親としても格好悪いぞ、と思いました。これが、冒頭で述べた「あるとき」です。何とかその状況から抜け出そうと、私は、自ら上司に自分が本当にやるべきと考えていたことを申し出て、さらに会社内でそれをやれる部門の部門長に自分をアピールし、最終的には配置転換をしてもらうことができました。転勤が決まったときに、元の職場の研究所長に「わがままを言って申し訳ありません」と言ったら、所長は「それはわがままではない。自分がやりたいと思ったことをやるということは、責任を自分自身で背負って進んでいこうとすることだから、今後の君には期待している」と言われたのです。これにはぐっときました。

そのときから今まで、私は幸いにも、大好きな光に関わる研究開発に携わり続けていくことができている。自分で決めて「自分のために生きている」のだから、何が起ころうと、それを自分以外の誰かのせいにする訳にはいきません。そのおかげで、弱い私でも自分に対する責任は自分自身にあるのだという気持ちでやることができたかなと考えています(まあ、精神安定のために、愚痴は言いますが)。

ところで、「自分のために生きる」と聞くと、それは利己主義のことだろうと思われる方も多いと思います。

果たしてそうでしょうか。たとえば家庭を持っている方ならば、独身時代には使い放題だった自由な時間を、今は家族のために使い、仕事だって家族のために多少の無理をしてしまうということだってあるでしょう。なぜそうするのかと言えば、多くの人は、自分の家族を幸せにしたいと願っているから、と答えるのではないのでしょうか。すなわち、家族への利他を行うことによって、「自分のために生きる」を実現しているのです。これは家族に限らず、チーム一丸となってプロジェクトを成功させたいとか、学会を盛り上げたいとか、その他、あらゆる場面で言えることです。「自分のために生きる」ことについて深く考えれば、それが利己主義とは異なることに気がつくでしょう。誰かに喜んでもらうこと、喜びを分かち合うことも、「自分のために生きる」ための重要な要素であることは多くの方が感じられていることと思います。

さて、この文章で私は「自分のために生きよう」と主張しているのですが、本当は誰でも「自分のために生きている」のではないかと思っています。「そんなことはない、自分は言われるがまま、滅私で生きているのだ」という声も聞こえてきそうです。私自身にだってそういう状況はありますが、大抵の場合、「身の安全のためには今は行動するよりも黙っているほうが得策だ」とか、「行動を起こすには随分エネルギーが必要だし、失敗するのも怖いから、とりあえず人の言うことを聞いておこう」という判断によるものです。それは結局、「自分のために生きる」ために今は何もせずに言われたとおりにしている、ということ自身で選択した結果なのだろうと私は認識しています。

ともあれ、行動を起こして成功しようと、不幸にも打ち破れようと、あるいは何もせずに状況に身を委ねようと、結局は「自分のために生きている」のだから、人生におけるさまざまなことを社会や組織や家族のせいにはせず、「これも自分で選んだ道さ」と、飄々と生きていければ格好良いなと思っているのです。なかなか難しいですけどね。